

令和7年度第3回別府市人権教育学級

- 1 日 時 令和7年8月21日（木曜日） 13時30分～15時50分
- 2 場 所 別府市公会堂 大ホール
- 3 テーマ 「部落差別問題」
- 4 演 題 「誇りをもって生きる」
- 5 講 師 宮丸太鼓店 店主 宮内 礼治 氏

【講師プロフィール】

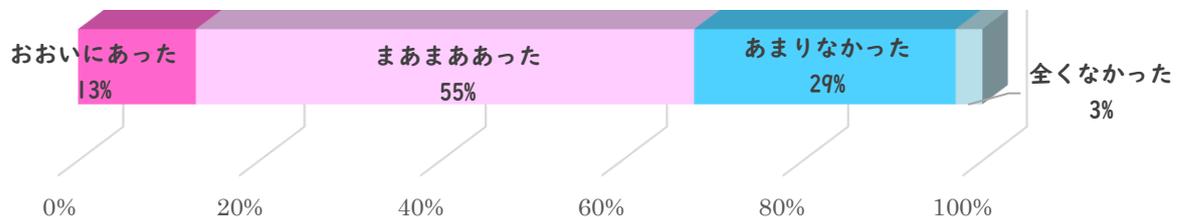
- ・鹿児島県日置市で伝統・和太鼓の製造販売を営む「宮丸太鼓店」店主。
- ・現在、小学生から大人まで幅広い年齢層を対象に、鹿児島県内外さまざまなところで生い立ちを通じた講演会や太鼓づくりの実演を行っている。

6 講演内容

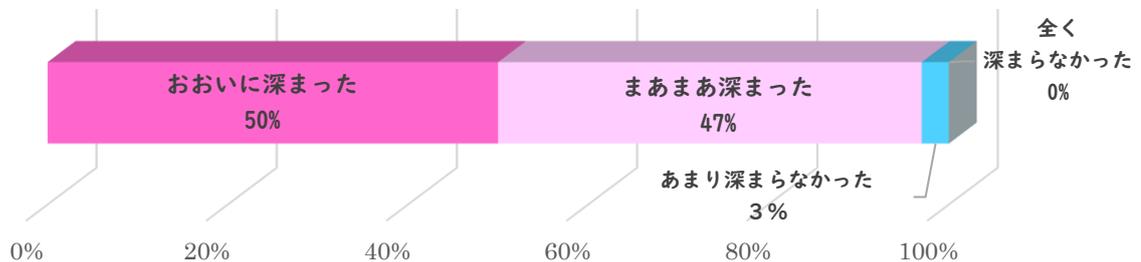
子どもの頃から親の太鼓づくりを見て育ち、「将来、太鼓屋になりたい」と感じた自分の純粋な思い。太鼓は牛の皮を使っていると知った子どもたちの「太鼓は牛を殺して作っているの？」と感じる純粋な疑問。両者の間にあるものは「知っているか知らないか」だけの違いではないのか？知ることで「誤解」をとき知識を共有していく。そんな時間を皆さんとつくっていきます。

7 参加者意識調査

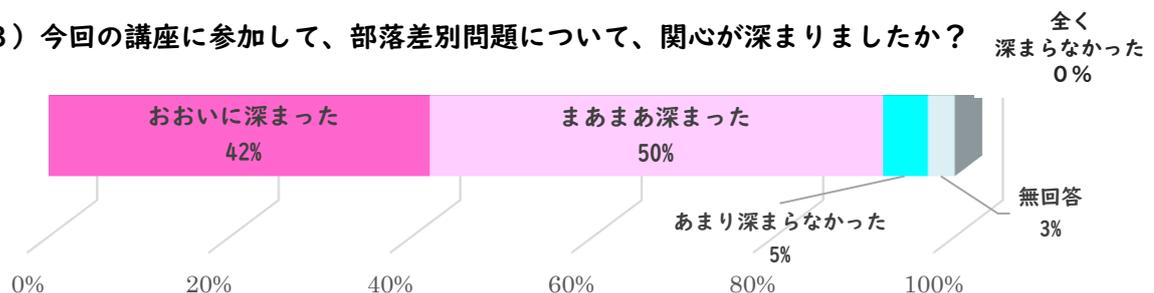
(1) 参加する前、人権問題について関心がありましたか？



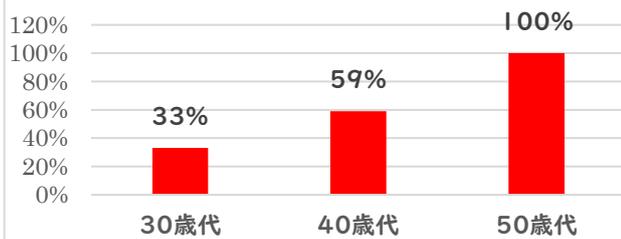
(2) 参加後、人権問題について関心が深まりましたか？



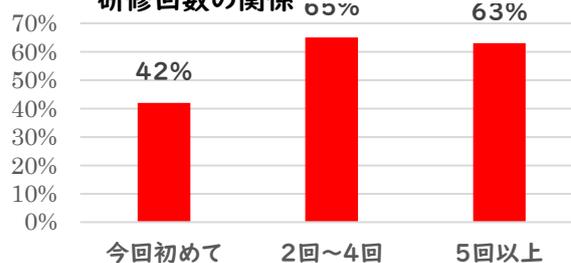
(3) 今回の講座に参加して、部落差別問題について、関心が深まりましたか？



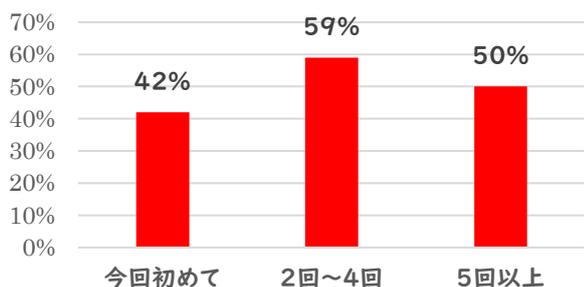
(4) 高い満足度（大変満足の回答者）と年齢の関係



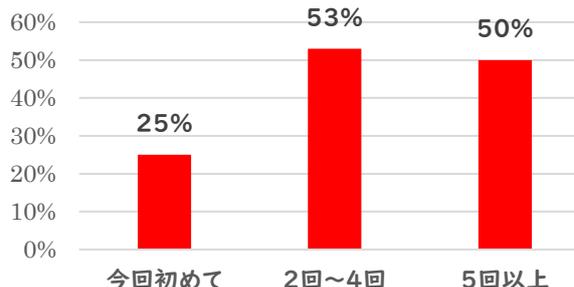
(5) 高い満足度（大変満足の回答者）と研修回数との関係



(6) 高い関心度（おおいに深まったの回答者）と研修回数との関係



(7) 高い理解度（おおいに理解できたの回答者）と研修回数との関係



8 学習会の様子



〈講師 宮内礼治氏〉



〈講演の様子Ⅰ〉



〈講演の様子Ⅱ〉

9 参加者の感想

- とても興味深い講演を聴講できとても有難かったです。太鼓作りを通して、命をいただく責任、ひいては植物の命や動物の命だけではなく、国家間の資源の奪い合いも大元は差別から始まっている気がしました。日々子どもの疑問をともに考えたり、疑問を投げかけたりして、丁寧に暮らしていこうと思います。
- 皆それぞれが技術、誇り、尊敬をもって、命をいただいている。私もこの流れの中にいます。「穢れ」の意識が崩れる瞬間でした。子どもの「なんで?」「どうして?」は権利であり、大人は面倒くさげらずに答えるのが義務ということは、親としてとてもハッとしました。肝に銘じます。最後の太鼓の音、すごく感動しました。
- 今回の学習を通じて、部落差別の歴史や現状について、改めて知ることができ大変勉強になりました。無意識の偏見に気づくことの大切さを実感しました。今後も差別のない社会づくりについて考え続けていきたいと思っています。
- ふだん生活している中では知りえない太鼓作りのことが、映像もありとても分かりやすく、楽しく参加させていただきました。宮内さんの声も、お話の仕方とても綺麗で聞きやすかったです。牛の話で、その流れのワンピースに自分が存在しているという考えをもつことで、第三者ではなく自分のこととしてとらえ考えられるところが印象に残りました。奪った命を昇華しているという所も印象的でした。また、子どもの権利の話も取り入れてくれて、宮内さんご自身がお父様やお母様から多くの愛情をもらい、背中を見て育てられたのだと想像しました。その愛情が様々な講演で、多くの子どもたちに届いていることだと思います。今日はありがとうございました。